

2021 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（○を付けてください） 古代史料領域 ○中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 賀茂別雷神社文書の調査・研究
3.新規・継続の別 継続
4.申請者 中世史料部門・准教授・金子拓
5.所内共同研究者 遠藤基郎（古文書古記録部門・教授）／遠藤珠紀（同・准教授）／川本慎自（中世史料部門・准教授）／林晃弘（近世史料部門・助教）／石津裕之（同・同）
6.希望する研究期間 2018 年度～ 2021 年度 （ 4 年間）
7.課題の概要（400 字程度）（この項は広報等に利用・掲載することがあります） これまで史料編纂所では、賀茂別雷神社文書について継続的な調査・撮影をおこない、画像やデータの蓄積とその公開を進めてきた。賀茂別雷神社文書（京都府賀茂別雷神社所蔵）は、近年の京都府による調査で約 14000 点に整理されたが、史料編纂所ではこのうち 2019 年度までに 4222 点（21250 コマ）のデジタル化を終えている。 同社文書については、文明 8 年(1476)の賀茂一社争乱といわれる祠官と氏人との争い以前のもは少なく、これ以後、江戸初期の寛文 5 年(1665)頃までの文書を非常に多く残している。本研究においては、この期間の文書約 8000 点のうち、中世を中心に調査・撮影をさらに継続し、デジタル化・データベースからの公開（研究資源化）を進めるとともに、これらを用いた賀茂別雷神社、同社の文書、および同社の神事、組織、所領について、また、同社の文書を用いた中近世の政治史、文化史などの研究をおこなう。
8.研究の目的（400 字程度） 史料編纂所がこれまで継続してきた賀茂別雷神社文書の調査・撮影を推進するとともに、この画像のデータベース（主として日本古文書ユニオンカタログ）からの公開を進める。また、現在早稲田大学・國學院大学など神社外の機関などに所蔵されている社外流出同社文書や、同社社司家所蔵文書の調査をおこなう。 文書の調査・撮影に並行して、すでに研究資源化されている画像なども含め、これらを素材に、これまで十分に解明されているとはいいがたい賀茂別雷神社の組織（祠官・氏人）や神事、収取構造や社領経営などの研究や、賀茂別雷神社文書に特徴的な氏人置文・算用状といった史料についても研究を深め、それぞれの史料的性格を明らかにするように努める。
9.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果（400 字程度） 2016・17 年度の一般共同研究として採択された、史料編纂所所蔵の賀茂社関係文書の研究資源化を目的とする研究、および中世後期の算用状をめぐる研究のなかで、賀茂別

雷神社文書も調査対象とし、研究資源化を進めてきたが、それらによって、中世の賀茂別雷神社の研究をより進展させるためには、賀茂社関係文書を総合的に把握する必要があるという認識を共有するに至った。

賀茂別雷神社は重文指定にあたり京都府教育委員会によって目録が作成され、一部マイクロフィルム・デジタル撮影がなされ、研究資源化されているが、十分とはいえない。そこで上記の要請をふまえ、今回特定共同研究として研究を組織することにした。

共同研究の経費によって賀茂別雷神社文書原本の調査・撮影を一年に複数回、数年にわたり継続することで、これまで史料編纂所において約 14000 点中 4222 点 (21250 コマ) のデジタル化をおこなってきた賀茂別雷神社文書のデジタル化をさらに促進する。これらの画像を日本古文書ユニオンカタログデータベースより公開することは、所蔵者および学界の希望するところであり、本共同研究による連携を通じ、同社・同社文書に対する研究の高まりをもたらすものと期待される。

また、共同研究に本所教員、および上記共同研究の経験者や新たな参加者を加えることは、これまで蓄積されてきた所外研究者による同社文書の調査実績を継承することでもあり、今後の継続的な調査・研究へもつながる有益な方法であると考えている。

10. 研究の実施計画

○賀茂別雷神社文書および関係文書の調査・撮影

2021 年度中に 2～3 回、共同研究員が参加して、賀茂別雷神社に赴き、同文書の原本調査と撮影をおこなう。また、神社外に所蔵されている賀茂別雷神社関係文書の調査・撮影をおこなう。

○成果報告シンポジウムの開催

本年度は最終年度にあたるため、2022 年初頭、4 年間の共同研究の成果を報告するためのシンポジウムを開催する（國學院大学における開催を予定している）。またこのための準備会（研究会）を 1～2 度開催する。

○展覧会の開催

シンポジウムとあわせ、共同研究の成果を広く一般に公開するための賀茂別雷神社文書を中心とした展覧会を開催する（会場は國學院大学博物館、同博物館・賀茂別雷神社共催、史料編纂所協力を予定している）。

11. 研究成果の公開計画

10 に記載した調査により蓄積されたデジタルデータについて、日本古文書ユニオンカタログに搭載するための整形をおこない、公開する。

研究成果がまとまり次第、参加者各自が論文・史料紹介などのかたちで学術雑誌・紀要などに報告する。また賀茂別雷神社史料集編集委員会（申請者が委員として参加）が刊行する『賀茂別雷神社史料』に成果を反映させる。

成果公開のシンポジウム・展覧会については 10 参照。

12. 共同研究員にもとめる役割

賀茂別雷神社文書に関心をもって、そのなかで個別の研究テーマを設定し、調査・研究会に積極的に参加していただける方。

（記入欄は適宜行数を増減して記入して結構ですが、2 頁に収めてください。）